

## 第2学年 国語科学習指導案

日 時	平成20年10月15日(水)			
学 級	2年1組	32名	2年2組	32名
授業者	菊 地 信 子		一 戸 真 穂	

- 1 単元名「だいじなところに気をつけて読もう」  
教材名「サンゴの海の生きものたち」(光村図書2年上)  
「ダテハゼとテッポウエビ」  
(「大自然のふしぎ 魚・貝の生態図鑑」より)

### 2 単元について

#### (1) 児童について

児童は、1年生の説明文教材「じどうしゃくらべ」では、自動車の働きと作りとの関係を考えながら読むことを、「どうぶつの赤ちゃん」では、2つの動物の様子を比べながら読むことを、また2年生1学期の説明文教材「たんぽぽのちえ」では、時間的順序や理由付けを示す言葉に着目する学習をしてきた。そして、これらの学習を通して新たな発見や共感の喜びを味わうとともに、興味を持って関係のある図書を読む学習へと活動を広げた。また、文中の語句に着目しながら内容を読み取ったり、経験とその語句とを結びつけて想像したりする活動も行ってきた。しかし、中には、読書への関心が低い児童や文章を読むことへの抵抗を持つ児童、挿絵をながめるだけにとどまっている児童も見られた。また、読解の能力には個人差があり語句そのものの理解が不十分な児童もいた。

そこで、本単元では、確実に説明文を読む方法を身に付ける学習として、文章全体の構成をとらえる力、話題提示文を見つけその問いに対応する叙述の文を読み取る力などをつけるとともに、音読練習をくり返すことで文章を読むことへの抵抗を少なくしたり、挿絵と文とを照らし合わせて内容を読み取ったりする力をつけさせたい。

#### (2) 教材について

学習指導要領第1学年及び第2学年における読むことの目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気づきながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書する態度を育てる」である。また、本単元に関わっての読むことの重点は「イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容のだいたいを読むこと。エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと」である。

本教材は、サンゴの海にはたがいに役立つようにかかわりを持ってくらしている生きものがあることを、イソギンチャクとクマノミとのかかわり合い、ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合いを例に出し説明している。文章構成は、「はじめ」「中(中1、中2)」「終わり」となっていて、説明文の典型である。「はじめ」の部分では読みの視点といえる文章全体の問かけが、「終わり」の部分では文章全体のまとめがあるので、構成としては理解されやすいと思われる。「中」の部分では二つの具体例を並列に示し、複数の対象について説明されているのでやや複雑ではあるが、内容的には様子や理由を表す語句を使って分かりやすく述べられている。また、教材文とともに鮮明な写真が使われており、書かれている情報を補う役目も果たしている。

本教材の学習を通して、児童は未知のことを知る喜びを味わうとともに、「はじめ」「中」「終わり」という観点で説明文を読む力や、様々な説明の中から中心的な対象や事柄に着目して読み進める力が身に付くと考えられる。

副教材は、図鑑の中から、関わり合っくらしている生き物について書き直して使用する。主教材で学習したことを生かし、生き物の特徴やお互いのかかわりについてまとめる活動を通して、他の様々な生き物にも興味を持たせ、読書活動につなげさせていきたい。

#### (3) 指導について

本単元の指導にあたっては、各段階において次のことに留意していきたい。

まず「とらえる」段階では、教材文をすらすら読めるようにし、初発の感想をもとに学習課題を設定する。通読の段階で、新出漢字や語句については学習し、読み取りの基礎となる力をつけさせたい。また、文章全体を大きく3つに分けることにより、文章構成を大まかにとらえる力をつけさせたい。さらに、単元の見通しを持たせるために、最後に「海の生きものずかん」を作る

ことを知らせ活動のめあてを持たせたい。

「ふかめる」段階においては、「サンゴの海の生きものたち」に登場してくる生き物についてかかわりを読み取らせていく。「どんな生きものたちが、どんなかかわり合いをしているのでしょうか。」の問いかけに対する答えを探すことに着目させながら、叙述に即して正確に読み取らせていきたい。サイドラインを引いたりワークシートに書き込みをしたりする活動を通して、読み取りを確かなものにしていきたい。副教材では、主教材で学習したことを生かして、生き物の特徴、関わり合いをまとめさせる。

「ひろめる」段階では、海の生きものに関する本や資料などを読み、読み取ったことを文と絵にまとめカードに書く活動に取り組みさせる。他の生き物に興味を持ち、読書の幅を広げられるようにしたい。

### 3 単元の目標

#### (1) 主目標

- ◎ 海の生き物たちがどのようにかかわり合っているのかを読み取り、共生の仕組みの不思議に興味を持つことができる。
- ◎ いろいろな生き物について調べ、生き物カードを作って交流する。

#### (2) 観点別目標

- ・国語への関心・意欲・態度
  - ◎ 海の生き物の共生関係に興味を持って読もうとしている。
  - ◎ 海の生き物に関する本をすすんで読み、意欲的に生き物カードを作ろうとしている。
- ・書く能力
  - ◎ 図書館の本などを読んで、「生きものカード」を作ることができる。(イ)
- ・読む能力
  - ◎ 「サンゴの海の生きものたち」が互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読むことができる。(イ)
  - 語や文のまとめりや内容、言葉の響きなどについて考えながら声に出して読むことができる。(エ)
- ・言語についての知識・理解・技能
  - 片仮名を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文を文章の中で使うことができる。  
(イ (ア))

#### (3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて分かったこと、不思議だったことなどの感想を持ちながら、読み進めようとしている。</li> <li>・海の生きものに関する本などをすすんで読み、カードにまとめようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本などで調べた海の生きものについて、分かったことをカードに書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの生き物たちのかかわり合いを叙述に即して読み取っている。</li> <li>・一まとまりの語や文として、はっきり音読している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生きものカード」の中で正しく片仮名を使って文を書いている。</li> </ul>

### 4 指導計画（10時間）及び観点別評価規準

次	時	目標	学習活動	身に付けさせたい力	読みのスキル	評価規準（評価方法）
一	1	教材文を読み、心に残ったことや知りたいこと等感想を持つことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の写真を見ながら、海のイメージを広げる。</li> <li>・「海の生きもの図かん」を作るめあてを持つ。</li> <li>・範読を聞いて、初発の感想を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想を持つ力</li> <li>正しく読む力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>題名</li> <li>写真</li> <li>追い読み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【関】単元の内容に興味を持って読み、感想を書こうとしている。(ノ)</li> </ul>

		つ。 ・音読練習をする。		一人読み	ート)	
	2	学習計画を立て、学習の見通しを持つことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いの文や答えの文を探し、文章全体を大きく3つに分ける。</li> <li>・はじめ、まとめの段落について読み取る。</li> <li>・学習計画を立てる。</li> <li>・新出漢字、語句の学習をする。</li> </ul>	文章構成を大まかにとらえる力	形式段落 意味段落 問いの文 答えの文 つなぎことば まとめの文 写真	【読】問いの文、答えの文、まとめの文を探し、文章全体を3つのまとまりに分けている。(設定表) 【言】新出漢字が読める。(発言)
二 ふ か め る	3	イソギンチャクとクマノミのかかわり合い(③④⑤⑥)を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イソギンチャクとクマノミの特徴を探す。</li> <li>・イソギンチャクとクマノミが一緒にいると良い理由を読み取る。</li> </ul>	中心となる文や語句に注意して読む力	中心文 中心語句 写真 つなぎことば	【読】イソギンチャクとクマノミがお互いに守り合っていることを読み取っているか。(学習シート)
	4	イソギンチャクとクマノミのかかわり合いをカードにまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で学習したことをもとに、イソギンチャクとクマノミのかかわり合いをペープサートで発表する。</li> <li>・イソギンチャクとクマノミのかかわり合いとその感想をカードに書く。</li> </ul>	中心となる語句を考えながら書く力	中心語句	【書】読みとったイソギンチャクとクマノミのかかわり合いをカードに書いている。(カード)
	5	ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合い(⑦⑧⑨)を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホンソメワケベラの特徴を読み取る。</li> <li>・ホンソメワケベラと大きな魚が一緒にいると良い理由を読み取る。</li> <li>・ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いとその感想をカードに書く。</li> </ul>	中心となる文や語句に注意して読む力	中心文 中心語句 写真 つなぎことば	【読】ホンソメワケベラと大きな魚との関係を読み取っているか。(学習シート)
	6	副教材を読み、生き物の特徴、そのかかわり合いについてまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダテハゼとテッポウエビの特徴やそのかかわり合いについて読み取る。</li> </ul>	文章の内容を正しく読み取る力	中心語句	【読】ダテハゼとテッポウエビの特徴とかかわり合いについて読み取っているか。(学習シート)
三	7	海の生きものたち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードの書き方を知る。</li> </ul>	カードの		【関】すすんで

ひろめる	～9	<p>に興味を持ち、本や図鑑からの資料を探して読むことができる。</p> <p>読み取ったことをカードに書くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海の生きものに関わる図鑑の資料を探して読む。</li> <li>読み取ったことを文と絵にまとめ、工夫してカードに書く。</li> </ul>	<p>書き方、本の探し方、調べ方を理解する力</p> <p>大事なことを選んで書く力</p>	<p>つなぎことば こそあどことば</p>	<p>資料を探し、調べようとしている。(態度)</p> <p>【書】大事なことを選んで書くことができる。(カード)</p>
	10	<p>友だちのカードを読み、良いところを見つけたりすることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちのカードを読み、文章のよさを見つけたりする。</li> </ul>	<p>感想を交流し合う力</p>		<p>【関】互いの作品に興味を持って読もうとしている。(態度、発言)</p>

5 本時の指導（2年2組 3/10 時間 授業者 一戸真穂）

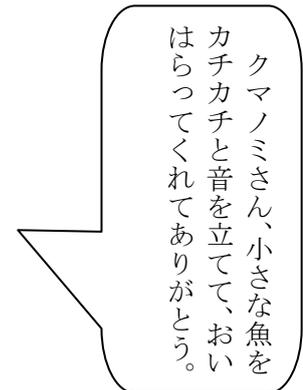
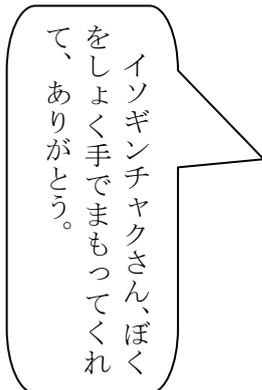
(1) 目標

- ・イソギンチャクとクマノミが、お互いに守り合っていることを読み取ることができる。

(2) 具体の評価規準と手立て

A：十分満足	B：概ね満足	努力を要する児童への支援
イソギンチャクとクマノミが守りあっている関係を、それぞれの特徴を入れながら吹き出しに書いている。	イソギンチャクとクマノミが守りあっている関係を読み取っている。	イソギンチャクとクマノミを食べる魚が近づいてこないことに着目させる。

具体例 A



(3) 指導にあたって

本時は、形式段落2つ目の問いの「どんな生きものたちがどんなにかかり合いをしているのでしょうか」に対する1つ目の答えである。イソギンチャクとクマノミのかかり合いを読み取らせるために、次の点に留意していきたい。

- ・イソギンチャクとクマノミの特徴の書かれている文を探し、サイドラインを引かせる。
- ・イソギンチャクとクマノミの特徴を文中から探し、丸で囲ませる。
- ・中心語句の意味を確認する。
- ・イソギンチャクとクマノミと一緒にいると好都合な理由を文中から探し、サイドラインを引かせる。
- ・イソギンチャクとクマノミが互いに守りあっていることを吹き出しに書かせ、理解を深める。

(4) 展開

段階	学習内容・学習活動（○主発問）	教師の支援（●支援を要する児童への手だて）	備考（◎評価規準・準備等）
とらえる5分	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を確かめる。 イソギンチャクとクマノミは、どんなにかかり合いをしているのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を思い起こさせ、問いの文に対する一つ目の答えを探していくことを伝える。</li> <li>・課題を意識化させるために、確認し、一斉読させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙板書（学習課題）</li> </ul>

<p>ふかめる 35分</p>	<p>3 学習の見通しをもつ。 「とくちょう」を読み取った後、「かかわり合い」を読み取ることを知る。</p> <p>4 学習課題の解決を図る。 ・形式段落の③④⑤⑥を音読する。 (指名読)</p> <p>(1) イソギンチャクとクマノミのとくちょうとかかわり合いを読み取る。</p> <p>①とくちょうについて読み取る (ア) イソギンチャク (集団解決) ・しょく手 ・どくのはり (イ) クマノミ (自力解決) ・オレンジ色 ・ねばねばしたえき ・カチカチという音</p> <p>②かかわり合いについて読み取る ○クマノミがイソギンチャクといるとどんないいことがあるか。 (集団解決) ・クマノミを食べる大きな魚がこわがって近づいてこない ○イソギンチャクがクマノミといるとどんないいことがあるか。 (自力解決) ・イソギンチャクを食べる小さな魚が近づいてくると、カチカチと音を立てておいはらう。</p> <p>5 学習課題についてまとめる。 イソギンチャクとクマノミになりきって、吹き出しに互いにまもっていることを書く。</p>	<p>・学習への見通しをもたせるために、紙板書を提示する。</p> <p>・指名読させ、子どもたちに学習内容を意識化させる。</p> <p>① 自分たちで大事な言葉を見つけさせるために、教科書の記述からイソギンチャクとクマノミの特徴が分かる文にサイドラインを引かせる。 ・イソギンチャクとクマノミの特徴をとらえさせるために、サイドラインを引いた文の中から中心語句をとらえさせ、丸で囲ませる。 ・言葉の意味をとらえさせるために、「細長いたくさんのしょく手」の言葉を知らせる。 ・教科書の記述からイソギンチャクとクマノミのかかわり合いが分かる文にサイドラインを引かせる。 ・形式段落①にある「たがいにやくに立つようにかかわり合ってくらしているものがいます」の文から、一緒にいるとお互いにいい理由があることを確認する。 ・かかわり合いが分かる文を共通理解するために、紙板書を用いて全体で確認を行う。 ・かかわり合いをより理解させるために、「とくちょう」を入れてかかわり合いをまとめるようにさせる。 ●クマノミを食べに来る大きな魚はどうして近づいてこないのかを考えさせる。 ●イソギンチャクを食べに来る小さな魚はどうして近づいてこないのかを考えさせる。 ・イソギンチャクとクマノミはまもりあっている関係であるということは読み取らせたい。 ・個々の考えに広がりや深まりを持たせるために、数名に発表させ、板書をし、イソギンチャクとクマノミがお互いにまもり合っていることを確認する。</p>	<p>・紙板書 (とくちょう、かかわり合い) ・学習シート</p> <p>・紙板書 (教科書本文) ・紙板書 (クマノミとイソギンチャクの絵、文) ・写真</p> <p>◎ イソギンチャクとクマノミが守りあっている関係をそれぞれの特徴を入れながら吹き出しに書</p>
---------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>イソギンチャク クマノミさん、小さな魚をカチカチと音を立てておいはらってくれて、ありがとう。</p> <p>クマノミ イソギンチャクさん、ぼくをしょく手でまもってくれて、ありがとう。</p>		<p>いている。 (学習シート)</p>
<p>ま と め る 5 分</p>	<p>6 本時のまとめをする。 (1) 学習の仕方を振り返る。 (2) 自己評価・相互評価をする。</p> <p>7 次時の学習を確かめる。</p>	<p>・本時に身に付けた力を振り返らせるために、学習の仕方を振り返らせる。</p>	

(5) 板書計画

イソギンチャクとクマノミ

イソギンチャクとクマノミはどんなかかわり合いをしているのでしょうか。

クマノミさん、小さな魚をカチカチと音を立てて、おいはらってくださりありがとうございます。

・しょく手  
・どくのほり

イソギンチャク  
とくちやう

かかわり合い  
大きな魚が、イソギンチャクのどくのほりをこわがって近づいてこない。

写真

かかわり合い  
小さな魚が近づいてくると、カチカチと音を立てておいはらう。

クマノミ

とくちやう

・オレンジ  
・ねばねばしたえき  
・カチカチという音

イソギンチャクさん、ぼくをしょく手でまもってくれて、ありがとうございます。

6 本時の指導（2年1組 6／10時間 授業者 菊地信子）

(1) 目標

- ・ ダテハゼとテッポウエビの特徴とのかかわり合いについて読み取ることができる。

(2) 具体の評価規準と手だて

A：十分満足	B：概ね満足	努力を要する児童に対する支援
ダテハゼとテッポウエビについて特徴をとらえ、そのかかわり合いについてまとめている。	ダテハゼとテッポウエビについての特徴をとらえている。	ダテハゼとテッポウエビが一緒に暮らしていると都合がよいことに視点を当てさせる。

具体例 A

テッポウエビは、 てきが近づいたとき	目のいいダテハゼに教えてもらって、自分が作ったすあなににげます。
ダテハゼは、 てきが近づいたとき	目がいいので、てきが近づいたことをテッポウエビに教えます。そして、テッポウエビの作ったすあなににげます。
てきが近づいたことがすぐ分かるように、テッポウエビはいつもしょっかくを、ダテハゼの体にくっつけておきます。頭がいいし、やっぱりなかがいいんだと思いました。	

(3) 指導にあたって

本時は、主教材で学習したことをもとに、ダテハゼとテッポウエビの特徴及び両者のかかわり合いについて読みとらせていきたい。その際、次の点に留意していきたい。

- 副教材1, 2をつかう。
- 副教材1から
  - ・ ダテハゼとテッポウエビの特徴を文中からさがしサイドラインを引かせる。
  - ・ 中心語句をさがさせる。
  - ・ 両者が一緒にいると好都合な理由を文中からさがしサイドラインを引かせる。
  - ・ ダテハゼとテッポウエビとのかかわり合いを自分のことばでカードにまとめさせる。
- 副教材2から
  - ・ 興味を持ったことをカードに書かせる。

(4) 展開

段階	学習内容・学習活動（○主発問）	教師の支援（●支援を要する児童への手だて）	備考（◎評価規準・準備等）
つかむ 3分	1 前時の想起をする。 2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ダテハゼとテッポウエビはどんなかかわり合いをしているのでしょうか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今までの学習を思いおこさせ、本時はダテハゼとテッポウエビとの関わりについて学習することを確認する。</li> <li>・ 課題を一斉読ませ、意識化させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙板書（学習課題）</li> </ul>
ふか	3 学習の見通しを持つ。 ・ 副教材1から「とくちょう」を調べてから「かかわり合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 副教材1, 2をつかうことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙板書（とくちょう、かかわり合い）</li> </ul>

め る	<p>い」について読み取ること を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>副教材 2 から、興味を持ったことを選び書くことを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主教材での読み取りの学習の仕方について確認し、本時も同様に進めることを知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挿絵</li> <li>学習シート</li> <li>副教材資料</li> </ul>
37 分	<p>4 学習課題の解決を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>副教材 1 を全文を音読をする。</li> </ul> <p>(1) 特徴とかかわり合いについて自力解決する。</p> <p>① ダテハゼとテッポウエビの特徴を見つける。</p> <p>ダテハゼ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目がいい</li> </ul> <p>テッポウエビ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すあなを作る</li> </ul> <p>② ダテハゼとテッポウエビとの「かかわり合い」を見つける。</p> <p>○ダテハゼがテッポウエビと一緒にいるとどんないいことがあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>てきが近づいたとき、テッポウエビの作ったすあなににげることができる。</li> </ul> <p>○テッポウエビがダテハゼと一緒にいるとどんないいことがあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ダテハゼは目がいいので、てきが近づいてきたことを教えてくれる。</li> </ul> <p>(2) 調べたことをみんなで確認するとともに、副教材 2 をつかって理解を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容をつかむために指名読をする。</li> <li>ダテハゼとテッポウエビの特徴が書いてある文にサイドラインを引かせ中心語句を○囲みさせる。</li> <li>かかわり合いが書いてある文にサイドラインを引かせる。</li> <li>学習プリントに記入させる。</li> <li>●見つけた特徴が、お互いがくらすのにどんないいことがあるかという視点でかかわり合いを見つけさせる。</li> <li>一緒に暮らしていることでお互いに役に立っていることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を書いた紙</li> <li>ペープサート</li> </ul>
	<p>5 学習課題についてまとめる。</p> <p>(1) 副教材 2 の内容も入れながら、お互い一緒にくらししていると都合がよいことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの特徴を入れて書くこと、おもしろい、不思議だ、素晴らしいと思ったことなどを含めてカードに書くことを確認する。</li> <li>ダテハゼとテッポウエビのいずれかの特徴はとらえさせたい。</li> </ul>	<p>◎それぞれの特徴を入れて関わりが書かれている。(学習シート)</p>
	<p>・テッポウエビは、てきが近づいたとき、目のいいダテハゼに教えてもらって自分が作ったすあなににげます。</p> <p>・ダテハゼは、てきが近づいたとき、目がいいのでてきが近づいたことをテッポウエビに教えます。そして、テッポウエビの作ったすあなににげます。</p> <p>・てきが近づいたことがすぐ分かるように、テッポウエビはいつもしょっかくをダテハゼの体にくっつけておきます。頭がいいし、やっぱりなかがいいんだと思います。</p>		

	(2) カードに書いたことを発表する。	・友だちの発表を聞き、自分の書いたことと比べさせる。	
まとめ 5分	6 本時のまとめをする。 (1) 本時の学習を振り返る。 (2) 自己評価・相互評価をする。	・学習して身に付けた力を確認する。 ・ダテハゼとテッポウエビがどんなかわり合いをしているかが分かったか。 ・がんばった友だちは誰か。	
	7 次時の学習内容を確認する。	・次時は、図鑑の資料から生き物カードを作ることを知らせる。	

(5) 板書計画

ダテハゼとテツポウエビ

ダテハゼとテツポウエビは、どんなかわり合いをしているのでしょうか。

とくちよう

- ・すあなを作る
- ・しりよくがよわい

テツポウエビ

かわり合い

てきが近づいたときに、すあなに入れてもらう。

かわり合い

てきが近づいたときに、サインをおくってもらう。

ダテハゼ

とくちよう

- ・目がいい
- ・すあなをつくることができない

テツポウエビは、てきが近づいたときに、

ダテハゼにサインをもらいます。そして、じぶんの作ったすあなに上げます。

ダテハゼは、てきが近づいたときに、

目がいいので、テツポウエビにサインをおくります。そして、テツポウエビの作ったすあなに上げます。

いつもしよっかくをダテハゼの体につけておきます。頭がいいし、なががいいんだと思いました。

7 教材分析表

1 サングの海の生きものたち

サングの海では、たがいにやくに立つようにかかり合っている生きものたちがいる。								要旨	
終わり	中				初め			意味段落	
IV まとめ	III 具体例 2 ホンソメワケベラと大きな魚とのかかり合い			II 具体例 1 イソギンチャクとクマノミとのかかり合い			I 話題提示		
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
まとめ	説明	説明	説明	説明	説明	説明	説明	問い	話題提示
合	そうじ魚	虫 大きな魚 体や口の中についた そうじ	ホンソメワケベラ 明るい青色の体に、 頭からしっぽにかけ て黒いすじが一本	カチカチ おいはらって たがいにまもり合っ て	大きな魚 あんぜん	しよく手 どくのはり ねばねばしたえき	イソギンチャク クマノミ しよく手	どんな生きものたち どんなかかり合い	サングの海 たぐさんの生き物た ち やくに立つ
このように、サングのうつくしい海では、たぐさんの生きものたちが、さまざまにかかり合っている。	ホンソメワケベラは、そうじ魚とよばれていて、そうじをしてとった虫が食べものになる。	大きな魚たちは、ホンソメワケベラが体や口の中についた虫をとって、きれいにそうじをしてくれることを知っている。	ホンソメワケベラも、サングの海にいるうつくしい魚の一つである。	イソギンチャクを食べにくる小さな魚をクマノミがカチカチと音を立てておいはらう。こうして、たがいにまもり合っている。	大きな魚は、イソギンチャクをこわがるので、クマノミはあんぜんである。	イソギンチャクのしよく手にはどくのはりがあるが、クマノミの体は、ねばねばしたえきでおおわれているのでさされない。	イソギンチャクのしよく手の間にクマノミがかんでいいる。	どんな生きものたちが、どんなかかり合いをしているのか。	サングの海の生き物たちの中には、たがいに、やくに立つようにかかり合っているものがある。
このようにくす。	でも、ただくしているのではあり	でもくからです。	くもその一つです。	こうしてくのです。	だから	くのです。	くがいますね。	どんなくしているのか。	それらの中には、くしているものがあります。

要点

表現の特色

ダテハゼとテッポウエビは、いっしょにくらしててきからみをまもっている。						要旨
終わり	中			初め		意味段落
⑩	⑤	④	③	②	①	形式段落
まとめ	説明	説明	説明	問い	示 話題提	段落の役割
る みをまもり合っ	てき サイン 見はりやく	見はり 目がいい ダテハゼ	すあな テッポウエビ	どんなかわり合い	すあな やくに立つ	中心語句 ダテハゼ テッポウエビ
る。 てきからみをまもり合っ	にげこむ。 ンをおくり、二ひきはすあなに	はりのやくができる。 ダテハゼは、目がいいので、見	を作ることができる。 テッポウエビは、自分ですあな	を しているのか。 いったい、どんなかわり合い	立つようにかかり合っ している。	要点 ダテハゼとテッポウエビは、て きが近づくと近くのすあなにに げこみ、そこでたがいにやくに 立つようにかかり合っ
です。 しているの	す。 す。 すあなにに げこむので	ができません。 ん。でも、 くはできま	す。 くを作ること とができます	か。 のでしょう くしている どんな	うに たがいにや くに立つよ	表現の特色